

新約聖書 ヨハネによる福音書 14章8節—17節 (新共同訳)

⁸ フィリポが「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、⁹ イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。¹⁰ わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。¹¹ わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。¹² はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。¹³ わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。¹⁴ わたしの名によってわたしに何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」
¹⁵ 「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。¹⁶ わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。¹⁷ この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

説教「願う」

十字架につけられる前夜、イエスは弟子たちに、父なる神のもとに自分は去って行くと告げます(ヨハネ 14:1-7)。イエスは父なる神のもとに行き、いずれ弟子たちも、イエスを通してそこに行く。そして弟子たちは、その道を知っているし、既に父を見ている、とイエスは言います。しかし弟子たちは、イエスが何を言っているのか理解できません。

そこで弟子のフィリポは、イエスにこう言います。「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」(ヨハネ 14:8)。

フィリポは、イエスに頼めば父なる神を見ることができると思い、そう願いました。そんなフィリポにイエスは「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ」と言います(ヨハネ 14:9)。

イエスは、既に父なる神を現していたのです。言葉においても行いにおいても、イエスは神を現していました。主イエスを見た者は、父なる神を見たのです。けれどもフィリポはそれが分かっていませんでした。イエスを見るのが、神を見ることであると理解していなかったのです。

「わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか」とイエスは言います(ヨハネ 14:10)。

父なる神がイエスの内におられることを信じるとは、イエス・キリストと一つになることです。信じることによって、私たちはキリストと一つになるのです。主イエスを信じる者が、主イエスの業を行うのは、主が共におられるからです。

ですから、主イエス・キリストを信じる人々を通して、この地上に主の恵みと力が現れます。主イエスが地上におられた時に、人々は様々な恵みのわざをイエスから受けました。そして、イエスが地上を去り天に昇られても、その恵みは無くなってしまいうわけではなく、かえってそれは大きく溢れるのです。

「わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである」とイエスは言います（ヨハネ 14:12）。イエスが昇天され天の父のもとに行かれたあとは、イエスが肉体をもって弟子たちと地上に暮らしていた時よりも、大いなる業を成してくださる。だから、キリストを信じる者、キリストと一つになった者は、イエス・キリストが地上にいた頃よりも、大いなることができるというのです。

「わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる」とは、私たちが自分の力で行う業ではありません（ヨハネ 14:12）。私たちを通して、キリストが行われる御業です。イエスが肉体をもってこの世にいた時よりも、大いなるわざを成してくださることが今は可能です。私たちがキリストよりも大きなわざを成す力を持つのではなく、今キリストが、ご自分が地上にいた頃よりも大きなわざを成してくださるのです。

弟子たちの大いなる力と業は、彼ら自身のものでなく、イエスが父のもとに行かれたあと、弟子たちの上に降った聖霊の力によるものでした（使徒 2:1-21）。イエスは地上にいた間、弟子たちのためにとりなし、あらゆることから彼らを守ってきました。しかし、イエスは地上を去っていきます。それゆえイエスは、神に願って、自分とは別の弁護者を送ると弟子たちに告げます。私たちが礼拝で読んでいる新共同訳聖書では「弁護者」と訳されていますが、口語訳聖書ではこの弁護者という語は「助け主」と訳されています。「弁護者」「助け主」の原語であるパラクレートス（ギリシア語）は、「支援のために呼び寄せられた者、援助者として招かれた者」という意味です。この語は、聖霊またはイエスに対して用いられています（ヨハネ 14:16、1ヨハ 2:1）。聖霊は、イエスが昇天した後にはイエスに代わって私たちを弁護し、守り、また慰めてくださるのです。

またイエスは「わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう」と弟子たちに約束します（ヨハネ 14:13）。

「わたしの名によって願う」、すなわちイエス・キリストの名によって私たちは大いなるものを願うことができます。

そして、そのような願い、祈りの答えとは何でしょうか。神は私たちの祈りに応えることで、キリストの栄光をお示しになるのです。キリストの栄光のために、神は私たちの祈りに応えてくださるのです。

イエスが弟子たちに約束した聖霊の派遣、それが実現したのが、「聖霊降臨」

(せいれいこうりん：ペンテコステ)の出来事です。本日の第一朗読の使徒言行録 2 章 1 節-21 節に、そのときのことが記されています。イエス・キリストが私たちと永遠に共にいるために、聖霊が弟子たちの上に降ったのです。

神は私たちと共におられる。そして今なお、生きて私たちに働いておられる。それを私たちに告げ知らせるのが、ペンテコステです。

聖霊が降ったときのことが、使徒言行録にこう記されています「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した」(使徒 2:3-4)。

私たちは聖霊によって、自分の舌ではなく、神が与えてくださった舌によって語るのです。

ところで、イエスは地上で宣教を始めたとき、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と宣べ伝えました(マタイ 3:2)。

悔い改めとは、過去のことを反省して後悔し、自分を責めることではありません。悔い改めとは、神の方に方向転換し、新たに生まれ変わることです。

私たち人間には、神が与えてくださった舌ではなく、自分の舌で語ったことによって、人を傷つけてしまうことがあるでしょう。

過去の自分の言動によって、人を傷つけてしまったという罪の意識に、後から苦しむこともあるかもしれません。

しかし、主イエスは、そんな私たちに「悔い改めよ。天の国は近づいた」と慈しみをもって語りかけてくださっているのです。

あなたが罪の意識に苦しむ時、神は私たちと共におられ、そして今なお、生きて私たちと共に働いていることをいつも覚えていてください。

主イエスが送ってくださったあなたの「助け主」であり「弁護者」である聖霊は、いつもあなたと共にいます。

私たちは、どのような心の痛みの中にも、神の方向を見続け、希望と喜びをもって共に歩んでいきましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。あなたは、生ける神である聖霊を私たちに遣わし、神の子としてキリストと共に生きる道を与えてくださいました。あなたへの賛美と喜びと共に、私たちが日々を生きていくことができますように。御子 主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

新約聖書 使徒言行録 2章 1節—21節（新共同訳）

¹五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、²突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。³そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。⁴すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。

⁵さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、⁶この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。⁷人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。⁸どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。⁹わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者があり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、¹⁰フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、¹¹ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もあり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」¹²人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。¹³しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。

¹⁴すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。¹⁵今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えているように、酒に酔っているではありません。¹⁶そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。¹⁷『神は言われる。終わりの時に、／わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、／若者は幻を見、老人は夢を見る。¹⁸わたしの僕やはしたためにも、／そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。¹⁹上では、天に不思議な業を、／下では、地に徴を示そう。血と火と立ちこめる煙が、それだ。²⁰主の偉大な輝かしい日が来る前に、／太陽は暗くなり、／月は血のように赤くなる。²¹主の名を呼び求める者は皆、救われる。』

新約聖書 ローマの信徒への手紙 8章 14節—17節（新共同訳）

¹⁴神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。¹⁵あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。¹⁶この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に証ししてくださいます。¹⁷もし子供であれば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。

教会讃美歌 298番「心まよいゆくをやめて」、333番「山べに向かいてわれ」、262番「みんなでパンを分けよう」、289番「すべてのひとに」。